

日露青年交流センター 日本語教師派遣事業

2018年度(2018年9月～2019年6月)

帰国報告書



サンクトテルブルク国立文化大学

Санкт-Петербургский государственный институт культуры

鈴木 麻由

(1) 年間業務日程

2018年

9月	着任
	在サンクトペテルブルク日本国総領事館表敬訪問
	授業開始
11月	【JLPT】日本語能力試験の事前打ち合わせ参加 於 在サンクトペテルブルク日本国総領事館
12月	【JLPT】日本語能力試験 N2 試験官 担当
	冬期休暇開始

2019年

1月	後期授業開始（社会人）
	前期テスト実施
2月	後期授業開始（学部）
	【弁論大会】打ち合わせ参加 於 在サンクトペテルブルク日本国総領事館
4月	【弁論大会】サンクトペテルブルク日本語弁論大会 於 ゲルツェン記念ロシア国立教育大学《円柱の間》
	JET プログラム 面接官 於 在サンクトペテルブルク日本国総領事館
5月	【弁論大会】事後協議会参加 於 在サンクトペテルブルク日本国総領事館
6月	学年末テスト実施
	離任

(2) 赴任校の概要

【大学名】 サンクトペテルブルク国立文化大学

(露) Санкт-Петербургский государственный институт культуры

(英) Saint Petersburg State University of Culture

【学長名】 トゥルガエフ・アレクサンドル・セルゲイヴィッチ

(露) Тургаев Александр Сергеевич (英) Turgaev Alexander Sergeevich

【所在地／連絡先】

(露) Дворцовая наб., д. 2/4, Санкт-Петербург, 191186, Россия

(英) Nab.2 Dvortsovaya nab.2/4, Saint Petersburg 191186, Russia

Tel /Fax: +7(812)318 97 74 (外国言語学学科) 大学ウェブサイト : <http://www.spbgik.ru/>

【国際部】 イグナテンコ・インガ

(露) Игнатенко Инга (英) Ignatenko Inga Tel/Fax : 8(812)328 20 00

【東洋文化学部 日本語学科責任者】

バース・イリーナ・イサエヴナ 外国語言語学学科学科長・教授

(露) Басс Ирина Исаевна (英) Bass Irina Isaevna

【日本語教育コース設置年】 1972 年

【日本語コースカリキュラム概要】

日本語は国際文化学部の言語学科と東洋学科では必修科目となっている。言語学科では第一外国語は英語であり、大学でゼロレベルから学習を始める言語を第二外国語とするため、日本語は第二外国語として学ぶ。図書学部では第一外国語に英語を選択する代わりに日本語を選択できる。

日本語コースを選択できるのは、国際文化学部、人文社会学部、図書学情報分析学部、言語学教育センターである。他に一般社会人も特別聴講生として日本語の授業を受けることが可能である。日本語履修学生を対象とした交換留学提携校は岩手大学、上智大学。

【日本語履修学生の卒業後の進路】

日系企業、外資系企業、観光業、教育関係、科学アカデミー図書館、こども図書館、エルミタージュ美術館、大学院進学（ロシア国内、日本への国費留学）等 ※前年度までの卒業生も含む。

【日本語履修学生数・レベル】

		履修 学生数	日本語 レベル	担当コマ数 (月)	主な使用教科書
国際文化学部 言語学科	1 年生	12(前期) 9 (後期)	N5	2～5 コマ	『まるごと A1/A2』 『みんなの日本語(副教材)』
	2 年生	12(前期) 7 (後期)	N4	2～4 コマ	『中級へ行こう』『毎日の聞き取り』 『漫画で学ぶ日本文化』他
	3 年生	5 (前期) 4 (後期)	N3-N2	2 コマ	『LIVE from JAPAN』『ポップカルチャーNEW&OLD』他
国際文化学部 東洋文化学科	1 年生	2 (前期) 2 (後期)	N5	2～4 コマ	『大地 I』『まるごと A1/A2』 『みんなの日本語初級 I (副教材)』
	2 年生	6 (前期) 5 (後期)	N5-N4	2～4 コマ	『まるごと A2』『みんなの日本語初級1 (副教材)』
	3 年生	1 (後期)	N4-N3	4 コマ	『毎日の聞き取り』『漫画で学ぶ日本文化』 『ポップカルチャーNEW&OLD』
	4 年生	2 (前期)	N3	4 コマ	JLPT 対策問題集 他
図書学部 情報分析学科	1 年生 2 年生	7 (後期)	N5	4～6 コマ	『まるごと A1』 『みんなの日本語初級 I (副教材)』
社会人(学部)	中級	6 (前期) 4 (後期)	N3-N2	8 コマ	JLPT 対策問題集『ポップカルチャーNEW&OLD』他
報告者担当学生数		前期 44 名/後期 40 名			
＜備考＞最終的に半期分のコマ数を消費するようにスケジュールが組まれるため、週によって担当コマ数変動する。					

【日本語教師数】

ロシア人教師 3 名（教授 1 名・常勤講師 1 名・非常講師 1 名） 日本人教師 1 名（報告者）

（3）赴任者の日本語教育業務

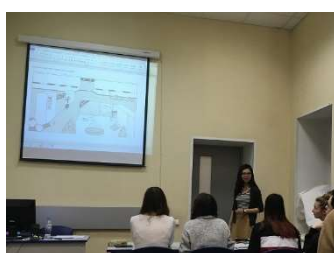
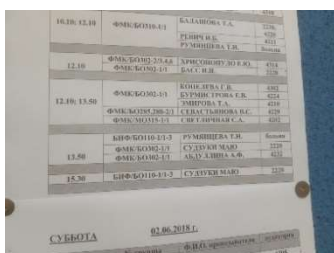
	月	火	水	木	金
8:30～10:00		言語学科 1 年生(前期)			
10:10～11:40		図書学部 2 年 生(後期後半)		言語学科 3 年生(後期)	
12:10～13:40	図書学部 1～2 年生 (後期前半)	言語学科 3 年生(前期) 1 年生(後期)	東洋学科 3 年生(前期)	東洋文化学科 1 年生 (前期隔週)	
13:50～15:20	東洋文化学科 2 年生 (後期前半)	図書学部 1～2 年生 (後期前半)	東洋学科 4 年生(後期)	東洋文化学科 1 年生 (後期後半隔週)	言語学科 2 年生(前期)
15:30～17:00	東洋文化学科 2 年生 (後期後半)	言語学科 2 年生(後期)	言語学科 1 年生 (隔週)	東洋文化学科 1 年生 (前期後期隔週)	東洋学科 4 年生(前期)
17:10～18:40				東洋文化学科 3 年生 (前期後期隔週)	
18:40～21:30 (2 コマ連続)				社会人/大学院 (前期/後期)	

＜備考＞隔週と表記したクラスについては、週によって 1～2 コマの増減がある場合や、週によってコマ数が異なり担当クラスの時間も変わることがある為、上の表では、最もコンスタントに授業を行った時間帯に各担当クラス名、実施時期を記載した。変更が頻繁であるためスケジュール管理に留意する必要がある。なお全クラスロシア人の先生と共同で担当する。月 24 コマを超える際は超過分の給与が支払われる。

写真左：スケジュール表（毎日、どの講師が何時にどの教室で授業をするかが廊下に張り出される）

写真中央：教室の様子、プロジェクターが使用できる教室が多い

写真右：文化大学が宮殿だった頃の面影が残る教室もある



【言語学科 1 年生 90 分×月 2～4 回 前期 12 名／後期 9 名】	
使用教材	『まるごと A1/A2』『大地』『みんなの日本語初級 1 (副教材)』 自作教材他
授業内容	文字指導から開始し、『まるごと』で足りない分の文型練習を、『みんなの日本語』副教材と『大地』から補った。文法はロシア人の先生が別途教え、報告者は会話/聴解を担当した。ロシア人の先生の授業で習った文法が運用できるようになることを目標に、グループワークやプレゼンテーションの時間を設けた。
評価	前期後期共に口頭試験を実施した。ロシア人の先生が最終的な成績を付ける。報告者の実施した試験結果は成績を出す際の判断材料となる。
所見	大学入学前に日本語の学習経験のある学生と、大学でゼロレベルから始めた学生が混在しレベル差があるためタスク設定に試行錯誤した。厳冬期に 8 時半授業開始の学期は、授業が終わってもなお日が昇らない日が続いたが出席率は良好であった。

【言語学科 2 年生 90 分×月 2～3 回 前期 12 名／後期 8 名】	
使用教材	『JLPTN4 完全マスター』『中級へ行こう』 『マンガで学ぶ日本文化―田辺多家が行く―』
授業内容	12 月の JLPT までは能力試験対策を行い、その後は『中級へ行こう』、『マンガで学ぶ日本文化』を用いて文化紹介をし、授業内で発表の時間を作るなどした。後期はディベートとミニプレゼンテーションを実施し、発話力の向上を目標とした。
評価	言語学科 1 年生と同じ方法で実施
所見	協働学習の雰囲気構築されたクラスで大変やり易かった。ただ、その場で自分の言いたいことを組み立てるのが苦手な傾向が見られたため、談話力を伸ばすことを目標に授業と各種教室活動を実施した。理解語彙の多さに対して使用語彙が少ない傾向も見受けられた。引き続き、運用力を伸ばすことが課題になると考える。

【言語学科 3 年生 90 分×月 4 回 前期 5 名／後期 4 名】	
使用教材	『JLPTN3 スピードマスター他』『マンガで学ぶ日本文化―田辺多家が行く―』 『LIVE from TOKYO』
授業内容	12 月の JLPT までは能力試験対策を行い、その後は上記テキストを用いて、読解の後で意見交換を行った。また、後期は聴解と会話を 45 分ずつ行い、ディベートとプレゼンテーション、ロールプレイ等の活動も実施した。
評価	言語学科 1/2 年生と同じ方法で実施
所見	モチベーションが非常に高く、後期に 2 名が岩手大学に交換留学した。自律学習の習慣ができていくクラスで、知的好奇心が強い学生が揃っているため、宿題やプレゼンテーションの準備に積極的だった。やり易いクラスだが、精読の時間の比率が高いためか、文語的な語彙と表現を用いて話す癖がついているため、適宜訂正した。

【東洋文化学科 1 年生 90 分×月 2～4 回 前期 2 名／後期 2 名】	
使用教材	『まるごと A2』『みんなの日本語副教材』
授業内容	『まるごと A2』をメインテキストに授業を進めた。宿題で『みんなの日本語の文型練習帳』を用いた。発話の練習に比重を置いて進めた。
評価	成績に反映されるテストの実施無し（期末に内容のまとめを行った）
所見	学習意欲が高い 2 名だが、理解が速い方の学生にもう一方が頼る事が多々あったため、各々が独自で取り組めるタスクを多めに取る工夫をした。

【東洋文化学科 2 年生 90 分×月 4 回 前期 6 名／後期 5 名】	
使用教材	『まるごと A2』『初級からの日本語スピーチ』
授業内容	聴解/会話は『まるごと A2』をメインテキストに行った。学生たちが日本語を発話するのは報告者の授業がメインとなるため、話す量を増やすために、『初級からの日本語スピーチ』を用いてミニスピーチを発表する練習をした。
評価	期末に口頭試問を実施
所見	フレンドリーで明るく好意的なクラスだが、日本語へのモチベーションは低く、学生間のレベル差もある。モチベーションアップを課題に、学生が自主的に学びたいと思える動機作りになる活動を模索した。

【東洋文化学学科 3 年生 90 分×月 2～4 回 前期 1 名／後期 1 名】 個人授業	
使用教材	『毎日の聞き取り』『マンガで学ぶ日本文化―田辺多家が行く―』 『絵入り日本語作文入門』
授業内容	聴解 45 分、会話 45 分の構成で授業を行った。聴解でウォーミングアップし、会話は運用力を上げることを目標に行った。後期は日本語弁論大会の練習を行った。
評価	出席率と課題/期末のまとめから評価
所見	生真面目で内気な所のある学生のため、理解していてもなかなか意思を口に出すことができなかった。話しやすい関係性と雰囲気を作ることを心掛けた。

【東洋文化学学科 4 年生 90 分×月 4 回 前期 2 名】	
使用教材	『JLPTN4 完全マスター』『ポップカルチャーNEW&OLD』他
授業内容	半年の留学から戻ったばかりの学生 2 名のクラスで 12 月の JLPT までは N3 文法/聴解を中心に授業を行った。読解と文法については宿題にし、授業で答え合わせを行った。JLPT 後は上記テキストを中心に、発話の時間を増やした。
評価	出席率と課題/期末のまとめから判断
所見	日本語を今後のキャリア形成に生かしたいという明確な動機があり、2 名とも学習意欲が高く、自律学習の習慣ができていた。JLPT 前は宿題の準備と添削に時間を要した。日本文化関連の内容を扱うと意欲が刺激される様子だった。

【図書学部 1/2 年生 90 分×月 4 回 後期 7 名 (2 年生 3 名/1 年生 4 名)】	
使用教材	『まるごと A1』『みんなの日本語初級 1 (副教材)』
授業内容	文字指導から開始し『まるごと』で足りない分の文型練習を、『みんなの日本語』副教材から補った。後期終了までに『みんなの日本語』第 13 課までの文型を導入した。
評価	エグザメンの実施無し
所見	語学の学習に慣れていない様子で、指示が通らない事や、分かっていない事を言い出せないまま参加している場合があった。関係性作りをしながら適宜改善を試みたが、コミュニケーションを取る意欲はあるものの、受け身な姿勢が見られるため、今後より能動的に対話できるようになってほしい。

【社会人/学部 中級 90 分×月 4 回 前期 6 名/後期 4 名】	
使用教材	『JLPTN3 完全マスター』(他、N3 過去問) 『マンガで学ぶ日本文化—田辺多が行く—』『聴解発表ワークブック』
授業内容	12 月の JLPT までは N3 対策を 90 分、会話と読解 90 分の 2 コマ連続で行った。上記のテキストの他にも、NHK NEWS WEB EASY や「昔話法廷 (NHK)」を使用した。
評価	エグザメンの実施無し
所見	専攻や学年が異なる学生が集まり皆個性的だった。協力しあいながらも刺激しあえる関係性の構築を学生主体で行ってくれ、実験的な教室活動にも積極的に取り組んでくれた (下:写真左) 個人的にモチベーションが下がってしまった事が原因で休みがちな学生には出席を促した。

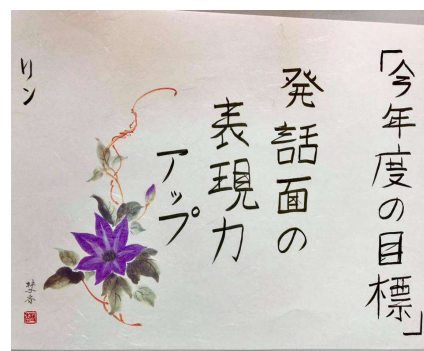
以下に各クラスで行った主な教室活動をまとめる

1	好きなロシア文学の紹介	5	ディベート/ディスカッション (2 年生以上)
2	観光ツアーを企画、プレゼン	6	本の帯を作ろう
3	「 10年後のわたしへ 」ビデオ制作	7	物語の続きを作りプレゼンしよう (2 年生以上)
4	好きな食べ物のレシピを紹介	8	文化紹介 書道/浴衣の着付け/緑茶

写真左/中央：教室活動の様子



写真右：学期初めに学生が立てた自身の今年度の目標



【個人指導 課外指導】

- ・サクトペテルブルク日本語弁論大会に参加する学生を4名、同僚と共に個人指導し、うち2名が入賞した。Aグループ（中上級）第2位受賞、Aグループ（中上級）特別賞受賞。
- ・国費留学生試験を受験する学生の指導教官とのメールのやり取りを添削。
- ・交換留学へ行く学生の推薦状を執筆。

【弁論大会】

- ・大会の約一か月前から準備に参加し、出場学生の指導を行った。
- ・例年、原稿審査と質問作成は当地の日本語講師が手分けして行っていたが、どうしても自身が指導した学生の審査を行うことになるため、公平性を高めるべく、日露の他赴任地の教師に書類審査と質問作成をお手伝い頂いた。その際の事務連絡他、大会運営に関する庶務をお手伝いした。

（4）反省点と今後の展望

- ・当地はロシアの中でも日本人の多い環境のため、学生たちが自分で既存の日露会話クラブに入り日本人の友人を作れる環境である。報告者自身は、日本センターの青年交流イベントに参加する等したもの、自身が主体となって学生間交流の橋渡しになるイベントを企画運営することができなかった。結果として、文化大に留学中の日本人に授業に参加してもらうこと等学内での交流は促せたが、外部の日本人を巻き込む形での青年交流の企画は実現できなかった。この点について、日本人が多い環境であることを十分に生かしきれなかったと反省している。

（5）その他の業務

- 1 Facebook ページの制作及び更新/運営 [リンク](#)
- 2 文化大学 WEB 情報誌 文化大学ジャーナル制作 [リンク](#)
- 3 ロシア CIS 日本語教師会にて発表 テーマ「能動的な発話を促す教室活動の実践」(2018年10月)
- 4 日本語能力試験の運営手伝い (2018年12月)
- 5 日露派遣教師合同企画「今年の漢字」参加 (2018年12月)
- 6 東シベリア日本語弁論大会 質問作成 (2019年4月)
- 7 沿ヴォルガ地域日本語弁論大会 審査員/講評を担当 (2019年4月)
- 8 JET プログラム面接手伝い (2019年4月)
- 9 サクトペテルブルク日本語弁論大会の運営参加 (2019年2月～4月)
- 10 学内で浴衣の着付け (2019年6月)
- 11 学生の推薦状執筆 (上智大学/岩手大学)



写真左：「今年の漢字」

(6) 青年交流

- ・ 日本大学安元ゼミナールとの交流会のプレゼン準備を手伝った。
- ・ 文化大学に留学している日本人留学生に声をかけ授業に招待した。
- ・ 孤児院の子供たちとの交流会、折紙/書道の手伝い。(市内日本料理レストラン「ヤルメン」にて)
- ・ 日本センターでの日露学生交流会に参加。
- ・ 学生を寮に招いて日本料理を振舞った。その他、学生の自宅を訪問、市内散策に出かけた。

(7) 任地の生活事情

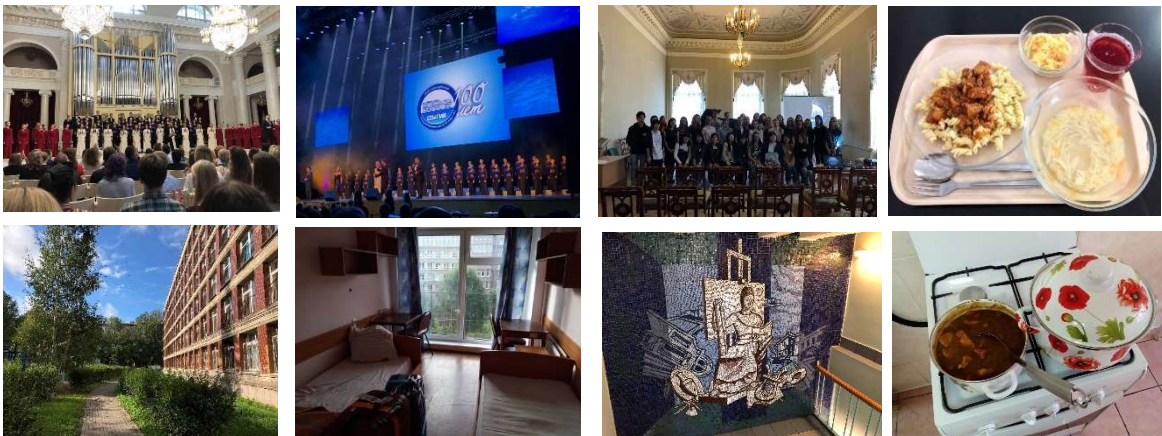
・ 生活必需品は大抵手に入るが、全体的に工業製品は日本よりやや高い傾向があるように感じている。以下に赴任地での衣食住、交通、治安について記載する。

【衣】: 現地で揃えることが可能である。海風が吹くことにより実際の気温より体感温度が低く感じることもあるため、外出の際はしっかり防寒対策をした。基本的に室内は日本の家屋より暖かい。特に寮は暖かく真冬でも 25 度以上あり、薄着で問題なかった。

【食】: スーパーにアジア食材コーナーがあり、日本で購入するより値は張るが、日本食を紹介する際に当地で食材を揃えることが可能である。200 ルーブル前後でランチを提供する店も多く、よく利用していた。

【住】: 文化大学学生寮の一室を使用した。寮の最寄り駅チョールナヤレチカを日本語訳すると黒川になることから、日本人居住者の間で代々「黒川寮」と呼ばれている。学生は 2 名以上で 1 室を使用する規則があるが、報告者と上智大学からの交換留学生のみ 1 名で 1 室使用することが許可されている。シャワーとトイレは 2 部屋共同で使用する。地下にコインランドリー部屋があり、1 回 120 ルーブルで洗濯機を使用できる。入居者 1 名につき 2 名までの訪問者の入寮が可能だが、14 時から訪問可能で 21 時までに退出しなければならない。門限は深夜 1 時であり、翌朝 6 時まで基本的に開門しない。報告者の隣室のロシア人女子学生 2 名とは半共同生活を送った。寮には各階共同キッチンがあり、4 つ口のコンロが 2 台と電子レンジ 1 台が設置されている。

(写真上段左から：入学式 / 創立 100 周年記念式典 / 日本大学安元ゼミ交流会 / 文化大学の学生定食
写真下段左から：黒川寮外観 / 入居直後の部屋 / 寮階段のモザイク画 / 寮のキッチン)



【交通、治安状況】：スリが多く、公共交通機関の利用時には十分に気を付ける必要がある。その他、特に治安が悪いと感じることは無かったが、現地 ATM を利用した際にカードのスキミング被害にあった。メトロ等の公共交通機関は 2019 年現在、40～45 ルーブルである。通勤はメトロと徒歩で 50 分～1 時間ほどかかる。文化大学はメトロの駅から徒歩 20～30 分ほどかかるが、バスを利用すれば大学のすぐ前のバス停に停車する。ただ、バスは渋滞に巻き込まれる可能性があるため、報告者は主にメトロと徒歩で通勤した。

終わりに

サンクトペテルブルクに赴任が決まった時、インターネットで都市名を画像検索すると、荘厳な世界遺産の数々がヒットした。胸が高鳴りつつも、いくらでも行きたい人がいる中で選んでもらえたことに恐縮した。実際に赴任すると、ネットで検索したときには知りえなかった情報が飛び込んでくるようになった。路面電車に乗って、どこまでも続く巨大なクバルチーラ（集合住宅）それぞれの部屋に灯る灯りを見た時は、ここでも確かに人が生活している事を実感した。この実感は、ネットで検索するだけでは、旅行者として観光地を巡るだけでは得られなかったものだと確信している。それは町だけでなく、人についても同様だった。「ロシア人の大学生」という認識から、「言語学科のエリザベータさん」に変わり、やがて「趣味は小説を書くことで、将来は自分の小説を日本語に翻訳したいと思っている、お調子者ではにかみ屋のエリザベータさん」になった。ロシアでの 3 年間で振り返ると、こうした個人的な出会いと物語がいくつも思い浮かぶ。学生たちとの交流を通してゆっくりロシアを知り、授業や自分を通して日本を知ってもらう機会を得られたことをあらためて嬉しく思っている。

サンクトペテルブルク国立文化大学で働くご縁を賜れましたこと、心より感謝いたします。のびのびと業務に励むことができたのは、赴任校の先生方の温かいご指導ご鞭撻と、聡明で優しい学生たちの協力のおかげに他なりません。在サンクトペテルブルク日本国総領事館の皆様、サンクトペテルブルク国立文化大学のバース・イリーナ・イサエヴナ先生、コルパシチコワ・リュボーフィ・ウラジーミロヴナ先生を始めとする当地での活動をサポートして下さった日本語教育関係者の皆様、ロシア各地で活動する派遣教師の皆様、そして、日露青年交流センターの皆様に、3 年間の任期を無事終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

以上